

人権センター公開講座のご案内



「多文化共生のまちづくり」

～在日コリアンの視点から～

【講師】 柳井 美枝 (金 美子) さん
やない よしえ キム ミジャ

講師からのメッセージ

人権といえば、自分とは関係ないことと考えがちですが、「知らない」「気付かない」ことにより、無意識に他者の人権を侵害している場合もあります。

在日外国人の人権問題についても、制度面を含めてまずは状況を知ってもらい、関心を持ってもらうことが大事だと思います。

「気付き」の出来る学習を一緒にしていきましょう。

【プロフィール】

- (社)福岡県人権研究所 研究員
- 北九州市立大学非常勤講師
- 在日コリアン3世。
本名は金美子(キムミジャ)

【日時】 平成23年3月1日(火) 開演19:30～

【場所】 小郡市人権教育啓発センター(大集会室)

【どんなおはなし…?】

今回は「外国人の人権」について、皆さんと考えてみたいと思います。講師の柳井美枝さんは、北九州市在住の在日コリアン三世です。小さいころから一世や二世の人達の苦勞を見ながら育ってこられました。一世の高齢者は日本語の読み書きができない方も多く、そうした方々を対象にこれまで識字教室「青春学校」や「穴生・中学校夜間学級」の開設・運営に携わってこられました。



柳井さんが在日三世としてこれまで体験されたことや、日々の生活の中で感じられたことなどをお聞きしながら、在日外国人を取り巻く状況について学習し、「すべての人が暮らしやすいまちづくり」とはどういうことかについて、一緒に考えてみませんか?

まずは知ることが大切です。ぜひ、お気軽にご参加ください。

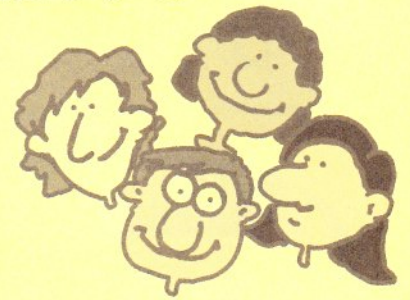
《問い合わせ先》 小郡市人権教育啓発センター
TEL 80-1080

手話通訳あり・入場無料

あなたのまわりに — 外国人の人権について —

— 216名 —

いま世界中のさまざまな分野で国際化が進み、それとともに人々の交流が盛んになってきました。こうした中、日本でも観光だけでなく、留学、仕事、結婚などの目的で国内に長期間滞在する外国人の数が年々増加してきています。



小郡市内でも外国の方々の姿を多く見かけるようになってきました。先に挙げた216名という数字は平成22年12月現在、小郡市で外国人登録をされている方の人数です。このような状況を考えても、外国人、特に日本に住む外国の人々への関心を高め、理解を深めることは今、小郡市に住むわたしたちにとっても大切な問題となってきています。

— 身近なところで —

日本に住む外国人は増加していますが、言語、宗教、習慣などによる違いから、職場や学校、地域などの日常生活の場においてさまざまな問題が起こっており、そのことが外国人に対する人権侵害につながっています。

◎ 職場で

外国人が日本国内で働こうとするとき、本人の能力や適性よりも国籍で判断され、なかなか仕事につけないという現実があります。そのため不利な条件で働かなければならないという実態も一部にあります。また、言葉の不自由さから職場の中で意思が十分に交流できず、そのため永く勤めにくいということも起こっています。

◎ 学校で

家族で日本に住む外国人も増え、小郡市でも市内の学校に通う子どもたちも多くなってきました。しかし言葉の壁もあって学習内容を十分に理解することが難しい実態があります。また、学校からの連絡などを保護者が十分に理解できず、意思を伝え合うことに困難を生じている実態もあります。

◎ 地域社会の中で

言葉や習慣などの違いから地域住民との間に誤解が生まれ、その結果、時には外国人を排除しようとする動きが起きています。また、言葉がわからないために日常生活に支障をきたすといった問題もあります。



— 違いを認め合う —

私たちは「みんなと一緒に」「みんなと同じ」であることに安心感を持つ傾向があります。そのことが時に「みんなと同じでない」ことを異質なものとして排除することにつながっています。国籍や人種の違いを個性や特徴としてとらえず、異質なものとしてとらえ、間違っただけの思い込みや一方的な決め付けによって外国人を排除しようとする傾向があります。一人ひとりがお互いの違いを認め、他の人の人権を守ることが、自分の人権を守ることにつながります。もちろん、「郷に入れば郷に従え」ということわざもあるように、外国人が日本の文化、慣習を理解することも必要です。しかし外国人が持っている文化を認めずに、日本の文化、

習慣を強制することは人権が大切にされている社会とは言えません。自分らしく誇りを持って生きる権利は世界中のすべての人々が、地球上のどこでも持っている権利であり、当然、日本にいる外国人も持っている権利です。違いをお互いに認め合いながら、外国の文化を尊重しつつ日本の文化を理解してもらうようにコミュニケーションを深める努力が必要です。

地理的、歴史的な背景もあってか、わたしたち日本人は外国の人々と接することに案外苦手意識を持っています。そのことが外国の人々にとって日本を住みにくいものになっています。まず私たちが、さまざまな機会を通して小郡に住む外国の人々に一歩でも近づくことから始め、その思いや願いに触れながら少しずつ理解を深めていきたいものです。

— 近づき、知ることから…小郡市では —

小郡市では民間団体の「おごおり国際交流協会」と市が協力して、市民と外国の方々が暮らしやすいまちにしようと取り組みが進められています。

おごおり国際交流協会の活動

■ 日本語教室

小郡市の委託を受け、市内・近郊に在住、勤務、在学する外国人を対象にした日本語の学習会を開いています。習熟度別のグループに分かれて、現在10名ほどのみなさんが毎週火曜日の夜に学習に励んでいます。

■ 国際理解講座

小郡市の委託を受け、外国の文化に関する講演会や外国の家庭料理教室を開いています。講師に外国人の方を招いて楽しく国際感覚、意識を深めています。

■ フレンドシップ交流会

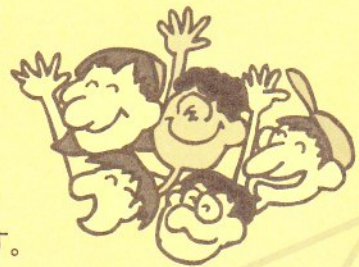
小郡ロータリークラブ、国際ソロプチミスト小郡、小郡市との共催で在住外国人の皆さんの交流を目的として行っています。

■ 「暮らしの便利帳」の配布

小郡市と協力して、日常生活に役立つさまざまな情報を英語、中国語、ハングルでまとめた冊子を作り配布しています。

■ ホームステイ、ホームビジット

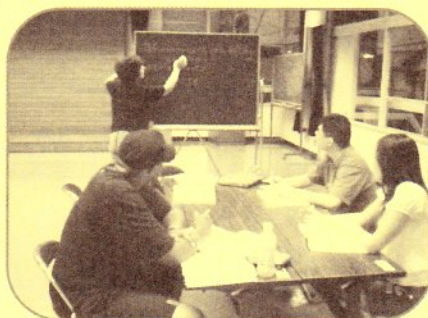
協会の会員がホストファミリーになって交流を深めています。



● 国際交流協会についてのお問い合わせ先

小郡市役所企画課内（電話72-2111 内線222）

このような交流を通して共生の輪が広がっています。外国人の皆さんが住みやすいまちは、私たちにとっても住みやすいまちのはずです。



日本語教室



フレンドシップ交流会

●●ビデオ紹介●●

とき 「わかりあえる季節」



(VHS ビデオ)

(内容)

「自分は差別していない」と思っている
人たちのところの中にある差別性を気づかせる
感動のドラマです。

差別発言によって傷つけられた関係を懸命に修復しようとする高校生たちの姿を描いています。

また、それを取り巻く教師、保護者、地域の人たちがその問題の解決に関わる中で、自分のことを見つめながら、お互いの関係を深めていきます。

《テーマ》 同和問題・外国人の人権

《上映時間》 52分

★このほかにも、様々な人権問題をテーマにした

ビデオやDVDを揃えております。

★皆様のご利用をお待ちしております。

「わいわい ごちゃごちゃ」

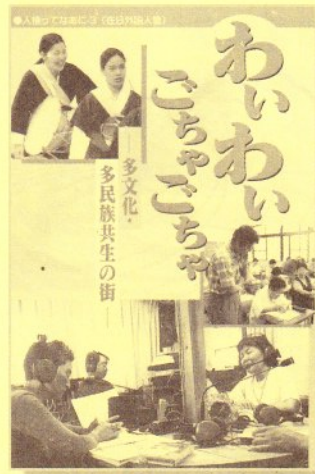
— 多文化・多民族共生の街 —

(内容)

在日韓国・朝鮮人をはじめ、アジア系の人々が多く暮らす神戸市長田区。阪神淡路大震災をきっかけに「多文化・多民族のまちづくり」を合言葉に「FMわいわい」が誕生。ここでは民族名を名乗ることの難しさ、在日教師の話など「在日」をめぐる様々なテーマをとりあげ、番組が作られています。

神奈川県川崎市。ここでも民族差別と闘い、国籍による制限を撤廃する取り組みが積み重ねられ、人権確立に向けた街づくりが行われてきました。

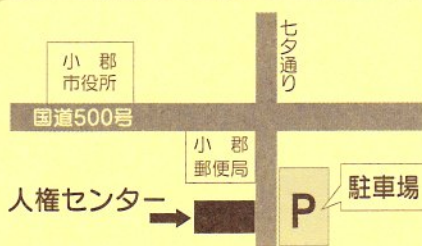
この作品では、長田区と川崎市を舞台に在日韓国・朝鮮人の取り組みと、共に活動する日本人の姿を紹介。「在日」の歴史も織りませ、「わいわい、ごちゃごちゃ」・・・街に暮らす様々な民族の人たちが共に生きていくことの大切さを探ります。



(VHS ビデオ)

《テーマ》 外国人の人権

《上映時間》 34分



小郡市人権教育啓発センター

(所在地) 〒838-0141 小郡市小郡296
 (電話&FAX) 0942-80-1080 (直通)
 (Eメール) oh-rec@iwk.bbq.jp
 (ホームページ) <http://www.oh-rec.org/>